

年度評価シート

課名 観光・MICE推進課

施設の名称 静岡市東海道広重美術館	指定管理者名 特定非営利活動法人へキサプロジェクト
1 履行状況	
<p>業務仕様書及び事業計画書に従って概ね適切に履行されている。</p> <p>(1) 維持管理業務 施設内の清掃、建築設備点検、備品管理等を日常的に実施し、必要な場合は、その一部を専門的な知識と技術を有する第三者に委託して実施。修繕が必要な場合は、本市との協議のもと適宜対応した。また、美観の維持のための清掃業務や駐車場施設の日常点検等職員によって着実に実施された。施設の安全の確保及び収蔵する美術作品の管理について、善良な注意義務をもって適切に維持管理を行った。</p> <p>(2) 施設利用者数 令和元年度の入館者数は19,955人で、目標数値27,373人に対して、達成率72.9%であった(平成30年度は、入館者数25,578人、目標数値34,000人、達成率75.2%)。</p> <p>令和元年度は、平成30年度に対して利用者数が▲5,623人(対前年度比 78%)であり、前年度割れという結果であった。昨年より続く桜エビの不漁に加え、台風接近による臨時休館、2月以降は、新型コロナウイルスの影響により清水港寄港客船のキャンセルが相次いだことなどの外的要因が大きい。</p> <p>(3) 事業実施状況 展覧会及び各種関連事業については、事業計画書に沿って実施されている。令和元年度は、5回の展覧会事業を開催した。</p> <p>5回の展覧会は、収蔵品の揃物を中心に企画し、開催時期やターゲットに合わせた展覧会の企画や、テーマに合わせた特別パネルを作成することでより深く展示内容を理解できるよう展示の仕方を工夫するなど、質の高い事業の展開ができています。また、展示解説には英語表記をし、外国人の入館者への対応も十分に行えている。</p> <p>展覧会の内容と入場者数は以下のとおり。</p> <p>ア 命の火・命の水 ～旅と日常を支えた火と水～ (入場者数5,100人、目標7,308人)</p> <p>イ 浮世絵に見る意匠(デザイン)の世界 (入場者数3,719人、目標4,418人)</p> <p>ウ 由比本陣公園開園25周年記念 今昔東海道ステーション (入場者数6,519人、目標7,896人)</p> <p>エ 日本の伝統四季ごよみ ～旧暦と二十四節気～ (入場者数2,586人、目標3,657人)</p> <p>オ 寺社参詣旅めぐり ～江戸の旅すがた～ (入場者数2,031人、目標4,094人)</p>	

また、小学生団体向けに学芸員による展示作品解説、浮世絵刷り版画体験等をプログラムとしている教育普及事業「スクールプログラム」や、「出張講座」を実施し、浮世絵や版画の魅力の普及活動にも努めているといえる。

スクールプログラム：12校 652人（平成30年度 22校 1,088人）
出張講座：6件 311人（平成30年度 7件 469人）
（一般向けは除く）

その他、創立100周年を迎えた静鉄グループや他の博物館との連携企画や講演会を開催するなど、他団体との連携で新しい取り組みを実施し、集客や普及活動に努力がうかがえる。また、本年度発足した地域の施設・団体が協力して由比の地域活性化に取り組む「ゆいまるプロジェクト」に参加し、桜エビの不漁や新型コロナウイルス等の外的要因の問題に対して地域の一施設として課題に向けて取り組む姿勢もうかがえる。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

利用者からの意見・要望に対しては、概ね適切に対応し、即時の対応が困難である要望に対しても前向きに対応・検討するなど、良好な対応がなされているといえる。具体的な意見・要望と対応状況は、下記のとおりである。

- (1) 意見：プロジェクターの英語字幕の追加希望、音量が小さい。
対応：音の大小については、大きいとの声もあり、状況により音量調整を実施。
恒久対策として指向性スピーカーの導入を検討。
- (2) 意見：順路が分かりにくい
対応：従来の案内看板に加え、エントランスホールの企画展看板の見取り図に順路番号を表示し対応。
- (3) 意見：駐車場の位置が分かりにくい
対応：地図を作成し説明するなど状況に応じた丁寧な説明を実施。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

展覧会ごと、施設入館者に対して、館内に設置した投書形式の利用者満足度調査を行った結果、展覧会の内容及びその他常設展について、「とてもよかった」、「よかった」と回答した割合が73.2%と満足度目標80%を若干下回っており、今後、更なる内容の充実に期待したい。

企画展満足度：83.4%
常設展：63.0%

(2) 市民アンケート

当課所管4施設（静岡市三保真崎グラウンドゴルフ場、静岡市由比本陣施設、静岡市東海道広重美術館、静岡市清水港船宿記念館）で実施しているアンケート調査によると、施設の認知度45.4%と昨年度を若干下回った。（平成30年度は、認知度48.8%）。指定管理者には、引き続き認知度向上及び集客への取り組みについて期待したい。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務の収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

施設の運営管理全般に関しては、事業計画に従い善良な注意義務をもって実施された。市との連絡調整も滞りなく行われている。

展覧会及び関連事業については、民間事業者とのコラボレーションや地域イベントとの連携協力など工夫を凝らした企画をしており、新しい切り口で幅広い層への浮世絵文化の魅力の発信に努めている。

教育普及事業では、「スクールプログラム」や「出張講座」を利用者の希望に合わせ講座内容を変化させるなど、より一層の利用者の満足度向上に努めるとともに、静岡市内だけでなく富士市、富士宮市といった市外の小中学校にも広報活動を行い、子どもたちに浮世絵文化の魅力に触れる機会を積極的に提供する取り組みは評価できる。

入館者数は、前年度から減少しているが、サクラエビの不漁により由比全体の入込みが減少していることで減少傾向が顕著に表れている。ゆいまるプロジェクトへの参加など地域課題に対して地元と連携して取り組んでいる様子がかえりため令和2年度については、これらの改善を期待する。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による入場者数の減少も顕著であるが、社会情勢に応じて安心して来館してもらえるよう対策を実施するなどの取り組みにより入場者数の維持改善に期待したい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。